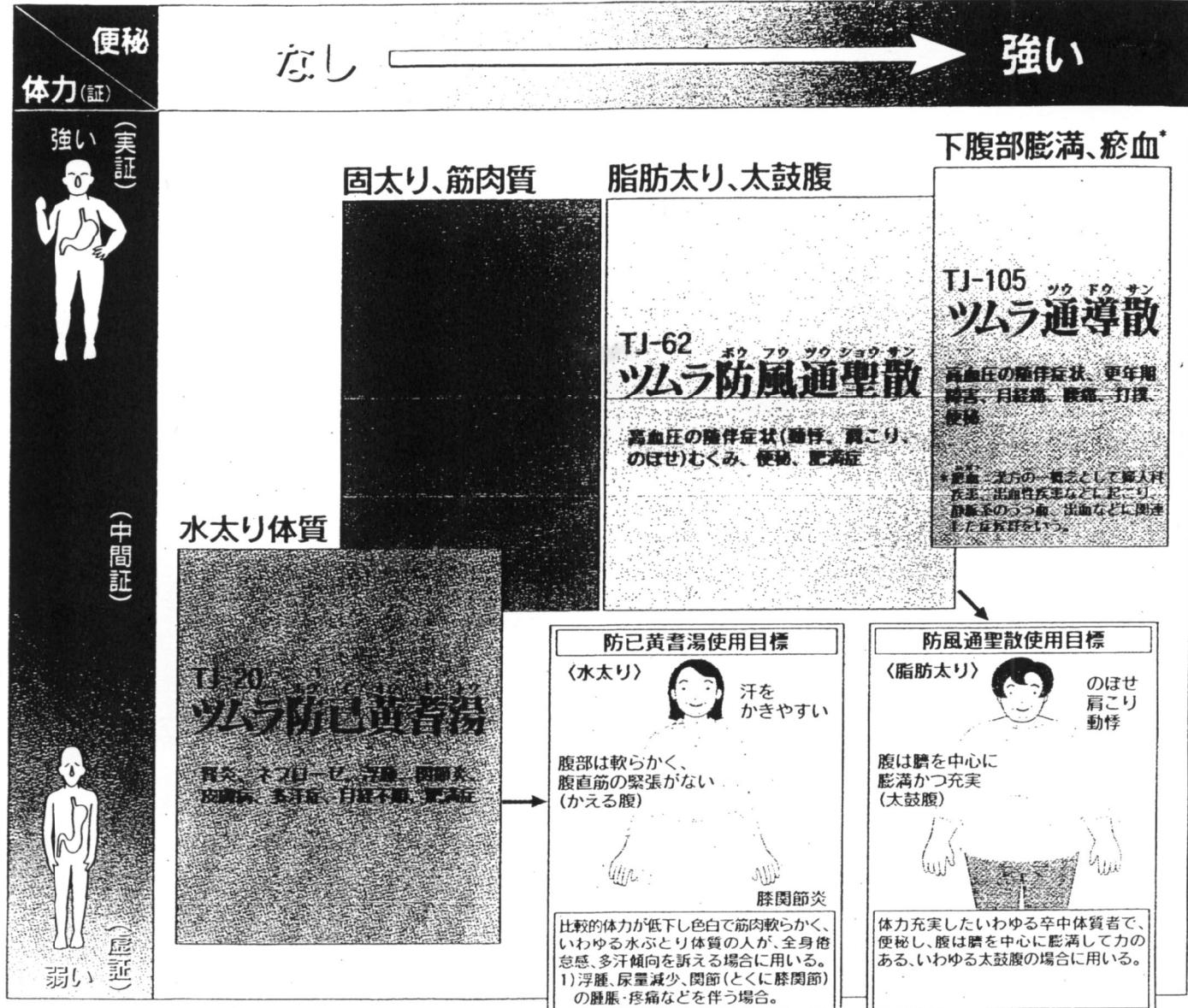


肥満症及び関連する疾患・症状の漢方治療ABC

[監修] 愛知学院大学心身科学部健康科学科教授、名古屋大学名誉教授
日本肥満学会理事、日本東洋医学会理事 佐藤 祐造



漢方治療のポイント

- 漢方処方は、体力・体質に応じて、何種類かを使い分けるとよりきめ細かなテーラーメイド的な治療が可能である。
- 漢方治療は、肥満症だけでなく併存する他の疾患も同時に改善させる(異病同治)ことが期待できる。
- 漢方製剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。

図の見方

- ◆上記の図は、漢方製剤を体力(証)と便秘の強さにより分類し、位置づけしています。
- ◆上記の図では、肥満を判断する目安として体型・体質(水太り、脂肪太り、太鼓腹など)を対比させています。

■上記の処方以外に、TJ-61桃核承気湯、TJ-63五積散、TJ-113三黄瀉心湯、TJ-133大承気湯などが使用されます。

この下敷は肥満症及び関連する疾患・症状に使われる主な漢方製剤をまとめたものです。効能又は効果、使用上の注意等は裏面をご覧下さい。

